

**製品名: PAK5/6 (リン酸化 Ser602/S560) ウサギポリクローナル抗体**

**カタログ番号: APRab05201**

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	75kDa

## 抗原情報

遺伝子名	PAK6/PAK7
別名	PAK7; KIAA1264; PAK5; Serine/threonine-protein kinase PAK 7; p21-activated kinase 5; PAK-5; p21-activated kinase 7; PAK-7; PAK6; PAK5; Serine/threonine-protein kinase PAK 6; PAK-5; p21-activated kinase 6; PAK-6
遺伝子 ID	57144/56924
SwissProt ID	Q9P286/Q9NQ5
免疫原	抗血清は、ヒト PAK5/6 由来の Ser602/Ser560 のリン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 566-615

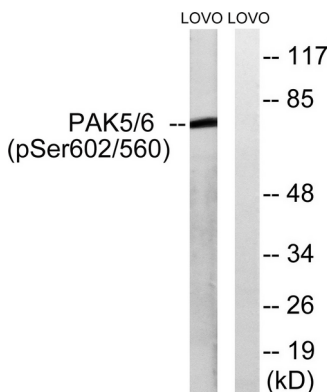
## 背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Ser/Thr タンパク質キナーゼの PAK ファミリーのメンバーです。PAK ファミリーのメンバーは、細胞骨格のダイナミクス、増殖、および細胞生存シグナル伝達の調節に関与すると考えられる Rac/Cdc42 GTPase のエフェクターとして知られています。このキナーゼは CDC42/Rac1 相互作用結合 (CRIB) モチーフを含み、GTP 存在下で CDC42 に結合することが示されている。このキナーゼは主に脳で発現しています。神経突起の伸長を促進する能力があるため、神経突起の発達に役割を果たしている可能性があります。このキナーゼは微小管ネットワークに関連しており、微小管の安定化を誘導します。このキナーゼの細胞内局在は、細胞周期の進行中に厳密に制御されています。同じタンパク質をコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: 活性化されたキナーゼは様々な標的に作用する。PTM: CDC42/p21 によって活性化されると自己リン酸化される。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。STE20 サブファミリー。類似性: 1つの CRIB ドメインを含む。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: GTP 結合型 CDC42/p21 および RAC1 と密接に相互作用するが、GDP 結合型 CDC42/p21 および RAC1 とは相互作用しない。組織特異性: 主に脳で発現する。

## 研究分野

ErbB\_HER;軸索誘導;接着斑;T 細胞受容体;アクチンと細胞骨格を制御;腎細胞癌;

## 画像データ



PMA 125 ng/ml 30 分処理した LOVO 細胞ライセートの PAK5/6 (リン酸化 Ser602/Ser560) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。